

令和7年度 上市高等学校アクションプラン —1—

重点項目	学習活動														
重点課題	基礎学力の定着に向けた教科指導等の改善														
現 状	<p>一昨年度までの取り組みをふまえ、昨年度も引き続き授業の中で「学び直し」を実施したことや全学年で基礎力診断テストを実施したことで、以下の結果を得た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び直しに大事だという意識をもって取り組んだ1年生は92.4%で、意欲的に取り組んだのは84.6%だった。 ・D3生徒の割合は、1年生で44.4%から37.1%、2年生で45.6%から25.2%と減少してきた。また、この結果を職員間で共有し、各教科における課題を検討した。 ・本校の生徒に必要な「社会人基礎力」を各教科で検討し、それらを授業で指導する方向性とした。各教科において、授業の指針とするべく年間指導計画に「学び直し」を盛り込んで計画し、実施している。 														
達成目標	①「学び直し」に対する意識の向上	②基礎力診断テストの結果の検討	③授業における「学び直し」の定着												
	<ul style="list-style-type: none"> ・学び直しに「やりがい」や充実感を感じる生徒の割合を60%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎力診断テストの結果を教育課程委員会や職員会議で検討し、授業改善につなげる。D3の生徒を減少させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で指定した授業の年間指導計画に「学び直し」を明確に位置づけ、学び直しの効果としてGTZがAからCまでの生徒数が増加するようにする。 												
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・「学び直し」の内容や進度についてアンケートを実施し、生徒に「学び直し」の意義を意識させる。 ・授業中に単元テスト等を実施し、生徒が分かる喜びやできる喜びを感じられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と協力し、基礎力診断テストの結果を各会議に提出する。 ・義務教育範囲の得点率の変化やD3の生徒の割合を全教員が把握できるように情報提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学び直し」を行う講座の年間指導計画に、義務教育範囲の学習内容と実施時期を設定し提出してもらう。 ・実施状況を各教科会議で検討する ・本校の生徒に必要な「社会人基礎力」について検討する。 												
達成度	<p>アンケートでは、「学び直し」の授業について、「大事なので必要・どちらかという必要」と考えている生徒が64.5%で、「意欲的に取り組んだ・特に意識せず普通に取り組んだ」生徒が84.5%と回答があった。</p>	<p>【D3生徒の割合の推移】</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>4月</td> <td>7月</td> <td>12月</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>45.8%</td> <td>→45.6%</td> <td>→45.3%</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>55.7%</td> <td>→41.2%</td> <td>→48.9%</td> </tr> </table> <p>2年生においては1年生の12月に行われたテストで37.1%であったのに年度替わりで後退している。</p>		4月	7月	12月	1年	45.8%	→45.6%	→45.3%	2年	55.7%	→41.2%	→48.9%	<p>年間指導計画として「学び直し」を含んだ授業計画は立案されている。</p> <p>しかし、結果としてGTZの数字だけをみると半数近くの生徒がD3ゾーンにいるため、学び直しの効果が出ているとは言いがたい。</p>
	4月	7月	12月												
1年	45.8%	→45.6%	→45.3%												
2年	55.7%	→41.2%	→48.9%												
具体的な取組状況	<p>各教科において「学び直し」の内容を計画し実施してもらっている。その点において、生徒は自分たちにあった授業と捉えて前向きに取り組んでいることがアンケートから読み取れた。</p> <p>4月・7月・12月に基礎力診断テストを行い、情報を職員間で共有した。しかし、成績が改善されたとは言えない結果となった。</p> <p>社会人基礎力の向上について、具体的な検討会は行われていない。</p>														
評 価	B	D	C												
学校評議員の意見	<p>家庭学習をもっとさせたらよいのではないかな。また、小テストを何度も行い、不合格者は居残りさせてもよい。</p> <p>学習意欲がないのか、全てにおいて意欲がないのか気になる。失敗してもよいのでチャレンジしていくことの大切さを知ってほしい。生徒達が自分たちでできることを任せられたらよい。例えば、生徒の力を引き上げるための勉強会をできる子達が主導して行うなど。</p>														
次年度に向けての課題	<p>「学び直し」に対する姿勢は悪くなく、高校での学習の基礎ともなる部分なので、今後もしっかりと行い、学習の定着につなげたい。</p> <p>基礎力診断テストの結果について、特に長期休業明けの成績が悪くなっていた。家庭学習の取り組み方に問題があると思われ、意識調査でも「学習意欲がない」と考えている生徒達に対し、何らかの手段をもって対応する必要があると思われる。</p>														

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:後退した)

令和7年度 上市高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活
重点課題	①基本的な生活習慣の確立 ②学校生活および社会生活への適応
現 状	①「基本的な生活習慣の自己管理」「身だしなみを整える」「公共のマナーを守る」等を指導重点として規律と秩序ある校風作りを進めている。 ②通学駅や玄関前での挨拶や服装指導を行っているが、コミュニケーションをとることが苦手な生徒や制服を着崩している生徒が見られる。 ③SNSに起因した人間関係トラブルが増加傾向にある。意識啓発に努めるとともに、適切な指導を早期に行っていく必要がある。
達成目標	①②年間の遅刻生徒回数の減少に向けて、生徒の意識改善を促す指導の充実 ③携帯電話の違反数（ルール違反・ネットパトロールによる指導）の指導件数の減少 ①②前年比10%の減少 ③前年比10%の減少
方 策	①②遅刻回数が多い生徒には、5分前に着席完了できるように生徒の自己管理と意識改善を促す。毎朝、玄関前指導を通じて挨拶を交わしながら生徒とのコミュニケーションをとる。さらに、進路指導と絡めて、社会人としての在り方を考えさせ、生徒主体の指導体制を工夫し、生徒の内面的な成長を促す。3学期からはチャイムの鳴り始めを着席の基準として生徒に徹底させた。 ③生徒理解と家庭との連携に努めている。教育相談の充実や教職員間の共通理解と連携強化がさらに必要である。生徒がいじめ等のトラブルや犯罪に巻き込まれないようにするとともに、学習への悪影響を防ぐため、生徒・保護者の意識の改善を図る。
達 成 度	① 遅刻回数については、前年度と比較すると1学期(369→362)、2学期(608→350)と減少した(27%減)。減少はしたもののまだまだ遅刻の回数は多い。基本的な生活習慣の確立、規範意識の向上を玄関前指導や上市駅での指導、学年集会等を通して呼びかけていきたい。また、遅刻の回数が多い生徒に対しては個別に生活習慣の見直しを促すとともに、家庭との連携を図り、粘り強く指導・支援していきたい。 ② 定期頭髪服装指導で再指導を必要とした生徒は、年間で258人→153人と減少した(41%減)。減少はしたものの普段学校生活での頭髪服装については、まだまだ改善の余地がある。頭髪服装指導の時だけでは、日常生活から身だしなみを整える大切さを①と同様に指導・支援していきたい。 ③ 2学期末までで、スマートフォンの使用違反延べ件数は165件→106件で減少した(36%減)。主な要因として、各学年及び授業出講者による指導の徹底があげられる。引き続き全校生徒への指導に加え、学年と連携して指導を行ってきたい。
具体的な取組状況	① ②毎朝の生徒玄関前、上市駅での挨拶や頭髪服装についての声かけを教員だけでなく、さわやか委員の生徒と一緒にいながら、生徒主体の取り組みや生徒間での意識作りを大切にしたい。 また、生徒会と協力し夏服の改善、規範意識の向上につとめた。また、図書部が行っている朝読書を行っている朝読書を遅刻防止にもつなげ学校全体の取り組みとした。 ③ 交通安全教室、着こなしセミナー、ネットトラブル防止教室、こころとからだの講座、薬物乱用防止教室、SNS危険防止研修会など外部の専門家の講話を通して生徒の安全と規範意識を高めるように指導した。
評 価	A
学校評議員の意見	遅刻対策について、時間をきちんと守ることが、社会で信頼される人になるために重要であることを生徒には知ってほしい。年齢が近い先輩から語ってもらうのも良い。
次年度に向けての課題	①②③ともに今後の課題としては、生徒会を中心として生徒が生徒のためにルールを見直し、ルールを作っていく機会を考えていきたい。そのためには、ルールはなぜあるのか？学校は何をすところなのか？など多くのことを生徒と教員が話し合い、よりよい学校生活を送れるようにしたい。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:後退した)

令和7年度 上市高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路指導		
重点課題	生徒の職業観を早期に育て主体的に進路先を探していくための情報提供と進路指導		
現 状	①進路目標の設定が遅れる生徒はしっかりとした職業観を育てていく必要がある。 ②県内外進路研修、インターンシップなど多くの進路学習が行われているが、生徒は受動的であり、個々の活動を系統的に生かし、進路意識を高めていくことが必要である。		
達成目標	1 学年 ①進路研究を深めるため、県内を中心とした体験的行事に積極的に参加させる。 ②県内等の体験的行事に年2回以上参加した生徒の割合が30%以上	2 学年 ①就職希望者のうち、インターンシップに参加する生徒の割合80% ②専門的な技術を必要とする学科に進学する生徒のうち、インターンシップに参加する生徒の割合60%	3 学年 ①第一希望の進学合格率と就職内定率90%以上 ②国公立への進学者数を前年度より増やす。
方 策	①-1 上市高校キャリア教育プログラムの「職業を知る会」「職場見学」「インターンシップ」「キャリアバイト」に多くの生徒が参加することで、早期に職業に触れ、職業観を育成していく。 ①-2 北陸の大学や医療系の学校の入試難化や、学校推薦型選抜を含め多様化が進む入試システムに対応し、入試関係の情報を随時、生徒・保護者に提供する。 ②-1 高校生の求人動向は、近年良い方向にある。さらに生徒の就職活動を十分に支援するために、企業の採用情報を的確につかみ、情報提供に努める。 ②-2 オープンキャンパスや各種施設見学など、体験的な学習への参加を生徒に勧め、受験への意欲付けや就職後のギャップを減らす。 ②-3 教職員の進路研修の一環として、主に進学実績のある大学・短大等の学校説明会や入試説明会への参加を勧める。		
達成度	県内・県外の体験的行事に自主的に参加 1回以上25名(33%) 2回以上11名(14%) 専門的職種体験参加者 看護師体験・・・3名 保育士体験・・・8名	インターンシップ参加者29名 就職希望者13名(45%) 進学希望者16名(55%) 就職希望者(34名)の参加者が少ないが、進学希望者(55名)の内、約半数は進学先を考えた体験先であった。就職を見据えて参加した生徒は13名(38%)である。	進学者の第一希望合格率 大学90% 短期大学100% 専門学校89% 計90% 就職内定率 希望者 34名 一次内定 28名 一次内定率 82%
具体的な取組状況	①-1 上市町や企業の協力の下、キャリア教育プログラムを実施し、のべ約240名が参加。早期からの職業観育成に努めた。 ①-2 難化・多様化する入試に対応するため、資料配付を中心に最新情報を随時提供し、家庭と連携した指導を行った。 ②-1 720件超の求人を確保。6月には既往求人先へ意向調査を行うとともに、求人のない企業へは企業訪問を行い、要因確認と関係維持に努めた。 今年度より就職支援サイトを導入し、生徒と保護者が 場所を問わず求人・学校情報を閲覧できる環境を整備した。 ②-2 資料配付に加え、授業内で現場体験の重要性を説くことで、ミスマッチ防止に向けたオープンキャンパス等への主体的参加を促した。 ②-3 実績校の説明会等への参加を推奨した結果、多くの教職員が参加し、最新情報の収集と指導力向上につなげた。		
評 価	C	C	A
学校評議員の意見	・生徒の学習意欲を喚起するためには、教員が適切な指針を示しつつ、生徒自らが具体的な目標を描けるような支援が必要である。 ・職場見学等の機会を捉え、企業担当者から学業と実社会の繋がりを直接語ってもらうことで、学びの意義を再確認させる場を設けることが望ましい。また、生徒同士が教え合い高め合う学習活動を推奨し、自ら主体的に行動できる社会人としての基礎力を養うべきである。さらに、卒業生を招いた「先輩に学ぶ会」などを通じて身近なモデルを提示し、生徒一人ひとりが自身の将来像を具体化できる機会を一層充実させることが求められる。		
次年度に向けての課題	1 進学 国公立大学等への合格実績を継続・発展させるため、生徒の「チャレンジする力」を醸成するとともに、教員の情報収集・提供体制をさらに充実させる。早期から進路意識と目的意識を明確に持たせ、個々の適性や意欲に応じたきめ細かな指導を推進したい。 2 就職 早期離職防止に向け、企業との連携を密にし、ミスマッチの解消に努める。また、今年度導入した就職支援サイトの活用を定着させ、保護者とも情報を共有しながら、生徒が広い視野と納得感を持って進路決定できる環境づくりを進めたい。		

(評価基準A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:後退した)

令和7年度 上市高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動	
重点課題	ボランティア活動、異年齢交流や部活動を通しての学校生活の充実	
現 状	<p>①校内外の行事や活動に対して、生徒会執行部に所属する生徒は比較的活発だが、参加する生徒が固定される傾向にある。令和6年度のボランティアサポーター登録数は77名で、学校で把握したボランティア活動に参加した者は延べ171名であった。また、希望しても無断で欠席するなど、活動意欲が不十分な生徒も見受けられる。</p> <p>②昨年度より新入生の活動を希望制とすることで、意欲的な部活動を行いやすい環境を整えた。しかし、それでも部登録はしているが活動していない生徒や、安易に退部する生徒も多く見られた。継続して部活動を続けている生徒は全体の70%程度である。また、全学年平均70%程度の生徒が、やりがいを感じて最後まで継続して部活動に取り組みたいと答えている。</p>	
達成目標	①ボランティア等の校外活動に参加した延べ人数 150名以上	②部活動にやりがいを感じ、最後まで継続したい(継続した)生徒の割合 80%以上
方 策	①生徒会及び各種委員会と連携を図りながら、活動の輪を広げる。また、地域交流や校内外でのボランティア活動、クリーン活動、家庭クラブ活動等に対する広報活動を活発化し、主体的に参加することへの意欲を高める。	②新入生の部活動参加を希望制とすることで意欲のある者達の活動を目指す。部活動の必要性や魅力を理解させ、体力や技術、意識の向上とともに人間的な成長と個性の伸長を実感させ、学校生活の充実を図る。また、部長会議を前期後期各2回以上実施し、状況把握を行うとともに、必要な対策を行う。
達成度	<p>・本年度ボランティアサポーターの登録は行わなかったが、外部から依頼があって募集した活動への参加者数は58名、その他に、クリーン活動で47名、家庭クラブで12名、各部等での保育園や老人施設への慰問、地域環境の整備等の活動に64名の生徒が参加した。学校が把握している参加人数は延べ181名で、さらに、個人的に地元の児童クラブや社会福祉協議会主催の活動に参加している者もいるとみられ、複数の生徒が活動できていると思われる。1月実施のアンケートからも、「もっとやりたい」「活動の幅を広げたい」という声が聞かれた。</p>	<p>・1月にアンケートを実施し、「やりがいを感じて積極的に部活動に取り組んでいる」または「引退まで取り組んだ」と答えた生徒は75.2%であり、「自分なりの目標を達成できた」と答えた生徒は69.9%であった。7割程度の生徒が前向きな気持ちを持って部活動に取り組んでいることがわかった。ただし部活動に所属していない者も多く、その理由としては「興味のある部活動がない」「学校の活動以外に時間を使いたい」という項目が高い割合を占め、生徒の興味関心の対象が以前よりも多様化していることも要因として考えられる。</p>
具体的な取組状況	<p>①ボランティア活動自体の種類が多様化し、生徒は自身の興味や関心、適性等を見ながら活動に参加した様子が覗える。逆に言えば、「人の役に立てたり地域に貢献できたりすることなら何でもする」というような生徒は減少しているようにも思える。しかしながら、さらにボランティア活動の種類を増やすことで、今まで参加したことのないもしくは参加経験の少ない生徒の活動意欲を触発できる可能性はある。</p> <p>②新入生の入部を希望制としたことが意欲向上にも繋がったと考えられる。今後は部活動自体への参加人数も増やすための手立てを考えていかなければならない。</p>	
評 価	A	B
学校評議員の意見	<p>・部活に所属していない理由で、「学校の活動以外に時間を使いたい」という生徒が多いが、どんなことに関心があるのか。時間を削っているものがスマートフォン等だったら危険である。</p> <p>・「先輩に学ぶ会」等で、ボランティアの大切さなども先輩から言ってもらおうと良い。</p>	
次年度に向けての課題	<p>・ボランティア活動については、活性化されてきたと感じるが、さらに多くの生徒への活動を促したい。多様な活動の情報を提示しつつ、参加へのハードルを下げ、きっかけとすることが重要である。</p> <p>・部活動については、SNS等を用いた広報活動で各部のそれぞれの活動等を発信し、生徒の参加意欲を促す。また、3年間の活動の継続を図るためにも、外部人材(エキスパート・外部コーチ)の積極的登用、業務の効率化を図ることで顧問が活動に参加できるための時間確保の工夫もしていかなければならない。</p>	

(評価基準A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:後退した)

令和7年度 上市高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	地域との連携
重点課題	外部への情報発信の充実
現 状	①令和6年度より公式Instagramを開設し、HPと併用して学校の様子を発信している。 ②あんしんメールを活用し、保護者に対して各種案内を行っている。 ③総合学科の特性を始めとする本校の魅力について、地域や各中学校への理解をより進める必要がある。
達成目標	生徒や教職員による公式Instagramの投稿を定期的に行い、閲覧の機会を増やす。 投稿回数の平均 毎週1回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒（生徒会）主導による記事の投稿を推進する。 ・保護者会や学校説明会、地域の行事やボランティア活動においてInstagramのPRを行う。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・12月末現在、今年度4月からの投稿数は69回（週平均1.8回）生徒の活動紹介を中心に学校施設紹介や通学バスの案内など、中学生や保護者に向けた投稿を行った。（フォロワー数は月平均30人ほどの増加。閲覧数も2学期からは月平均15万回近くを維持している。年齢層では保護者世代の閲覧数が多く、地域別では富山市、滑川市、中新川郡の順となっている。） ・生徒会主導による記事の投稿回数、動画の投稿が目標に届かなかった。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・Instagramの投稿内容に関する確認作業をIT活用により効率化し、即時性を高めた。 ・中学生・保護者に向けたオープンハイスクール前後の7、8月、中学校訪問後の12月に、より積極的に記事を投稿した。 ・1年次の「産業社会と人間」の授業で上市駅や町営バスを装飾した際に、生徒の取組みに関する情報発信やInstagramのQRコードを掲示した。 ・本校HPや保護者向けにあんしんメールを用いた情報発信を継続し、Instagramとも連携した。
評 価	B
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・Instagramの投稿で興味を持った内容があった。生徒の声が見えるとよい。 ・素地ができれば、生徒の力を信じて、生徒に任せるとよいのではないか。
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会報道委員、放送部員を中心にリール動画作成に取り組み、地域との連携の様子や、本校の魅力的な活動の紹介に努めたい。（各教員が記事を提供しやすい仕組みも検討したい） ・総合学科の特性について教職員の理解を図り、地域や各中学校への発信方法について検討したい。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:後退した)